

たかけい学報

高経大生の
キャンパスライフを
サポートする情報誌

The Bulletin of Takasaki City University of Economics



特集

2017年 創立60周年に向けて

no.96

2017年創立60周年に向けて

高崎経済大学は、2017年に創立60周年を迎える。

この間、社会に輩出した卒業生は約33,000人。各界・各層で活躍する卒業生は、在学当時何を考え、どんな行動をしたのか。そして、それが今、どう活きているのか。

また、60周年を迎えようとする今、在学している4,000人の学生は、どんな夢や目標をもって日々を歩んでいるのか。

※60周年記念事業につきましては、決定次第ホームページ等でお知らせいたします。



沿革

1957

1961

1964

1996

2000

2002

2003

2006

2011

2017

高崎市立高崎経済大学 開学
(経済学部経済学科)

現キャンパスに移転

経済学部経営学科 設置

地域政策学部地域政策学科 設置

大学院地域政策研究科 設置

大学院経済経営研究科 設置

地域政策学部地域づくり学科 設置

地域政策学部観光政策学科 設置

公立大学法人高崎経済大学へ移行

創立60周年
経済学部国際学科 設置

CONTENTS

p.1-6

特集 2017年創立60周年に向けて

p.3-4

卒業生寄稿
「あの頃のぼくたちは。」

p.5

TAKAKEI VOICE
「君はどこへ向かう？」

p.6

たかけい before after

p.7

国際学科開設

p.8

留学体験記 南条 調さん

p.9-10

研究室紹介

経済学部 清水さゆり 准教授
地域政策学部 岩崎 忠 准教授

p.11

学生クローズアップ
ラクロス部 本田 真穂さん

p.12

ふるさとを語る
日本編 その33 安井 菜都美さん
海外編 その32 コルテーズ・ジーンさん

p.13

鶴鷹祭 野木康士郎さん
三扇祭 太田 誠也さん

p.14-15

たかけいINFORMATION

七福興業株式会社 保険部長 尾崎 晴仁さん (1978年 経済学部卒)



2017年創立60周年、大変おめでとうございます。
私が入学して間もない昭和49年8月に同窓会「徳島様名会」の設立総会がありました。以来、同窓会にはほとんど出席していますが、昨年、定年退職したのを機会に42年間会長を務めていただいた日下武久氏から二代目会長をお引き受けし、微力ながら同窓会活動のお世話をしている近況です。
さて、今回、学生時代のことを寄稿してくださいとの依頼がありましたので、後輩のみさんの参考になればと、思い出されることを記したいと思います。
一つ目は、加藤一郎先生の財政学ゼミでの学びです。群馬県の依頼を受け、現在も話題となっている、八ツ場ダム建設にともない埋没する川原湯温泉街の現地調査をゼミで行いました。当時、ダム建設の賛否が大きく分かれ混乱し、墨字で「建設反対」と書いた筵旗(ムシロバタ)を竹竿で固定している看板がたくさん立ち並んでいました。取りまとめにあたって喧々諤々の議論を行ったことも忘れがたい思い出です。
二つ目には、クラブ活動であります。入学間もないころ学園紛争が発生し、結果、大学が新しいクラブや同好会等の設立を多く認めました。そこで、高校時代のラグビー部から一転、約10名でアマチュア無線クラブを設立しました。当時はインターネットなどなく、無線は先端的な技術でした。利害関係のない大学時代の友は一生の友であり、今も彼らとの良好な友人関係は続いています。
卒業後、地元の阿波銀行に就職したのですが、新入行員時代には「どうしてこんなことがわからないんだ」とひどく叱責を受けること度々でした。学生時代にもっと、深く物事を判断するための、読書や多様な知識の学び方について学習していればと反省したものです。私は働くようになってから、「学ぶことの大切さ」に気づきましたが、学生時代でなければ出来ない学びがあると考えています。クラブ活動やボランティア活動等に参加することもその一環であり、人間としての興行や見識、品性が深まるものと信じています。

株式会社ジャックス 取締役 尾形 茂樹さん (1984年 経済学部卒)



創立60周年、大変おめでとうございます。
私は1980年4月に高崎経済大学に入学し、下小堀にある悠学荘という共同アパートに下宿しました。数年前高崎を訪れた時に悠学荘は健在だったので、現在もあると思います。玄関を出ると左手に榛名山を臨み、毎日眺めていました。今でも大好きな山で、私の執務室には榛名神社の御札が掛けてあり、毎朝拝礼しています。
学生時代は、高校時代と同じく硬式テニス部に在籍しました。入部以来4年間、朝から夕方ボールが見えなくなるまでテニスに明け暮れていました。1年生の都留文科大学からレギュラーになり、4年生の秋の大会まで出場しました。中でも、2年生の時にA級に昇格し群馬選手権に出場する資格を得たこと、3年生の時に北関東五大学大会で13年ぶり2度目の優勝を果たし、その夜、悠学荘に部員が集まり、夜中まで祝勝会を行ったことが最大の思い出です。テニスからは当たり前ですが、「努力すれば強くなる」ことを学び、その後の人生の糧になりました。
さて、学生の本文である勉学の方ですが、今まで触れてきたようにテニス三昧であったため、ほとんど勉強しませんでした(社会人になり苦労しました)。学生の方々にお伝えしたいのは、やはり勉強は必要であるということです。企業が求めているのは、本質を基に論理的に議論し物事を決定・行動できる人材です。本質の基になるのは所謂リベラルアーツです。まさに、大学の講義で学ぶもので、ゼミでの討論は論理的に議論する訓練になります。さらに、企業のグローバル化が進む中、英語力は必須となっています。
振り返れば、あっという間の4年間でしたが、現在の学生の皆さんには有意義な学生生活を送って頂きたいと思ひますし、母校高崎経済大学が「学生がとにかく研鑽を積む、活気がある」という風土文化を持つ大学になることを願っております。

愛媛県統計課統計分析係長 松井 彰さん (1985年 経済学部卒)



創立60周年おめでとうございます。
私が入学したのは昭和56年です。上越新幹線は未開通で、上野から高崎線に乗って高崎駅に近づくと、日本製粉の大きなサイロと隣のレトロな建築物が見えてきて、歴史が古く産業の盛んな土地だなあという印象を持った記憶があります。この建築物を設計したのが愛媛県にゆかりのある木子七郎氏であることを知ったのは後年のことで、同氏が設計した愛媛県庁本館はまだまだ現役です。
当時も、全国から学生が集まり、年齢層も幅広かったせいもあって、実に個性的な方が多く、公私にわたり様々な点で刺激を受けました。それまで見たこともなかったパーソナルコンピュータを「ASCII」という分厚い雑誌を愛読する下宿の後輩に教わり、時代の変化を予感したのも懐かしい思い出です。また、繭の季節のサークルの伝統行事だった、製糸工場での徹夜のアルバイトも印象深く、深夜の工場での汗を流した経験から、富岡製糸場の世界遺産登録を誇らしく感じています。
就職については、具体的に考えていませんでしたが、第二外国語のロシア語で親しくなった同級生から、一緒に公務員試験の勉強をしないかと誘われたのがきっかけで現在に至っております。ちなみに、この同級生は霞が関のキャリア官僚になっています。
大学は、当時から、図書館で各地の地方紙を購入し自由に閲覧することができるようにするなど、地方から入学してきた学生に対する心配りがあふれていました。60年の歴史の中で作り上げてきた環境を今後も創造し続けていってほしいと思います。

みほ 江畑 晴彦さん (1993年 経済学部卒)



創立60周年、誠におめでとうございます。
私が入学した昭和63年は、世の中も大学も大きく変化する時期に当たりました。大学1年で元号が変わり、三扇寮の廃止や図書館の建替え、からさき食堂の移転、マルフクの閉店などもその頃です。今はなきスズキ自販柳沢自動車や満福亭・火の鳥・ビデオルーカスは全盛期でした。バブル経済の末期でしたから、週末の中央銀座や柳川町は肩がぶつかり合う程の人混みです。当時から高経大生は、アルバイト・学園祭行事・卒業生の就職などで、地元高崎市に溶け込んで存在をアピールしていました。
福岡県から上京し、風呂・トイレ・台所共同6畳ひと間の下宿から始まった私の大学生活は、每晚のように誰かの部屋に集まり、同期や先輩と呑み語り明かす日が続きます。酒に関しては、呑み方から始まりスマートな戻し方・泥酔者の取り扱いや二日酔い対策も先輩方からしっかりレクチャーされました。
居酒屋などで誰かが酔いつぶれると、みんなで下宿まで運び、枕脇に洗面器を置いてトイレトペーパーを敷き詰め、横向きで寝かせて見守る、という動きが仲間内では徹底されていました。
もう一つ欠かせない車について、当時は激安の中古車が普及していて、街中でも車を見ると高経大生かどうか判別できた程です。私も親に内緒で1年生の終わりに運転免許を取得し、在学中に5台の車を乗り継ぎました。合計しても40数万円という破格でした。ボロでも大切にしていたマイカーで、夜中に思い付きで新築の東京ドームや湘南海岸を目指したり、心霊スポット巡りをしたことが、昨日のように思い出されます。
18歳からの数年間という大変多感な時期をここで過ごせたことは、私の人生に於いて一番大きな要素です。高崎経済大学ならではの…と言える学内外の多様な人々に触れつつ、勉学に励んだことで今の自分が作り上げられたのは間違いありません。

株式会社群馬銀行 支店長代理 田中 千里さん (2005年 地域政策学部卒)



2017年に高崎経済大学が創立60周年を迎えることに、心よりお祝い申し上げます。
大学で過ごした4年間は、十数年の学生時代の中で一番濃密な時間でした。自宅通学のため、生活費に困ることはありませんでしたが、学費は自分で賄うことが親との約束だったため、授業と部活動の合間を見つけては、アルバイトを詰め込んだ生活を送っていました。今考えてみれば、少々無茶なシフトの組み方をしてたなと思います。でも、不思議と辛いと思わなかったことがありません。それはきっと、本当にこの学部で学びたいと思っていて、周りの友達も何か足りない環境で頑張っていたからだだと思います。幸い、私が在籍していた頃の地域政策学部は一学年200人弱だったので、なんとなく皆顔見知りで、何かと協力し合えたように思います。
学生生活は、全てにおいて仲間の協力はなしには成立しませんでした。特に、英語の授業とお昼事情は身に沁みました。当時、必修の英語は受講クラスの争奪戦で、英語が苦手な私は受講権をなかなか獲得できませんでした。権利がなければ授業も受けられず、単位を落としてしまうシステムに苦しめられましたが、見かねた友達からの協力で単位を落とさずに済みました。
お昼ごはんは、節約のため専らお弁当。下宿生の友達から、色々な食材を買えないという意見があり、5、6人で各自が一品のおかずを人数分と、自分のご飯を持ち寄ることを誰かが考案しました。おかずの内容は内緒にしていたので、全員が卵焼きだった日は、お腹を抱えて笑いました。みんな味付けや形が異なっていて、結局完食。卵焼き事件のおかげで、地域や家庭によって皆違うことを実感しました。講義で、地域性の違いを学んでいましたが、仲間との何気ない生活から体験できることは、この学部の特権だと思います。
住みやすいコミュニティを作ることに興味があって入学しましたが、社会に出てみて、大学4年間の生活そのものが自分の考える理想だったのかなとつくづく感じています。在学している皆さんにとっても、たくさんの経験と思い出をつくるコミュニティでありますように願っています。

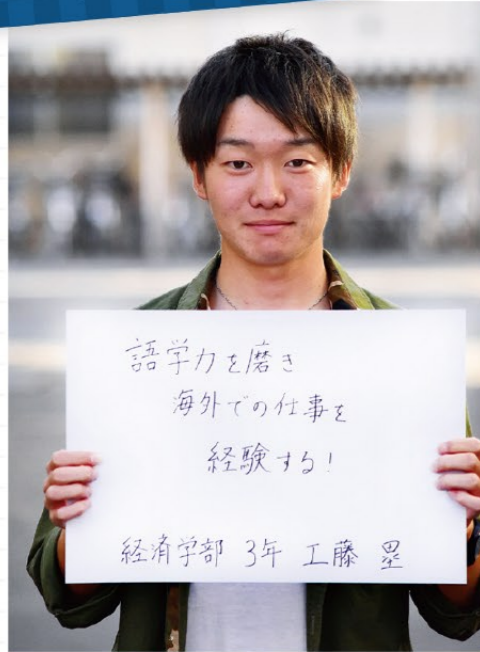
人事院事務局総務課広報室勤務 山田 大介さん (2013年 地域政策学部卒)



来年、高崎経済大学が創立60周年を迎えられることに、心からお慶び申し上げます。
私は4年前に本学を卒業し、現在は人事院という機関で働いています。この時期、霞が関の駅から職場に伸びるイチヨウ並木を歩いていると、銀杏の独特な香りを感じ、ふと2号館前の並木道や学生時代の思い出が頭をよぎります。
私は、地元や社会に貢献したいという思いから、本学の地域政策学部に進学しました。47都道府県から集まった学友たちに刺激を受け、専門的で具体的な学びができたと感じています。
在学時は、特にゼミ活動に力を入れて地方自治に関する研究を行っていました。ゼミの課外活動では多様な職種や立場の方とお会いする機会にも恵まれ、魅力的な方々とお会いする度、より多くの人々の活躍を支えたいという気持ちが強くなっていったことを覚えています。また、ご指導いただいた教授からは、何事も鶏呑みにせず「常に疑問を持つこと」の重要性を学び、それが物事を考える際の軸になりました。社会人になってからも、この軸に立ち返ることが多々あります。
このような多くの出会いを通じて、それまで漠然と抱いていた思いが少しずつ形となり、結果として国家公務員の道を歩むことになりました。本学での4年間の学生生活は、私の現在や今後を形成する、とても貴重で充実した時間であったと感じます。
また、勉学以外にも、放送研究会の仲間とともに映像作品を制作したことや三扇寮のステージ企画の音響を担当したこと、授業のカリキュラムを工夫して時間を作り、映画館に通ったことなども良い思い出です。本学が迎える60年の歴史の中には、学生たちのこのような沢山の思い出が詰まっていることを思うと、本当に素晴らしいことだと思います。
最後になりましたが、関係各位並びに高崎の地に感謝申し上げますとともに、本学の今後ますますの発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

君はどこへ向かう?
your dream.

TAKAKEI VOICE



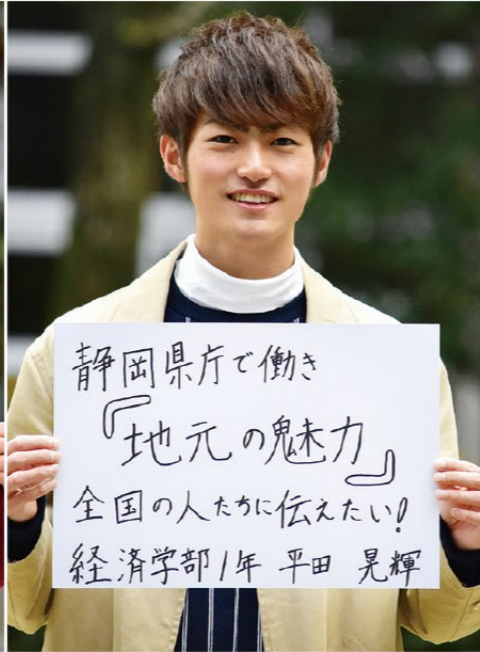
語学力を磨き
海外での仕事を
経験すべし!

経済学部 3年 工藤 暉



日本の良さを世界に伝える
グローバルな人間

地域政策学部 4年 THE NU AYE



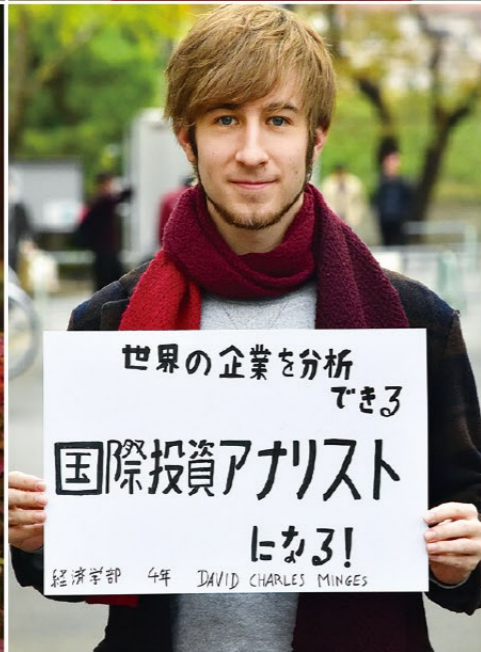
静岡県庁で働き
『地元の魅力』
全国の人たちに伝えたい!

経済学部1年 平田 晃輝



世界で活躍する
Banker

経済学部2年 大柳尚子



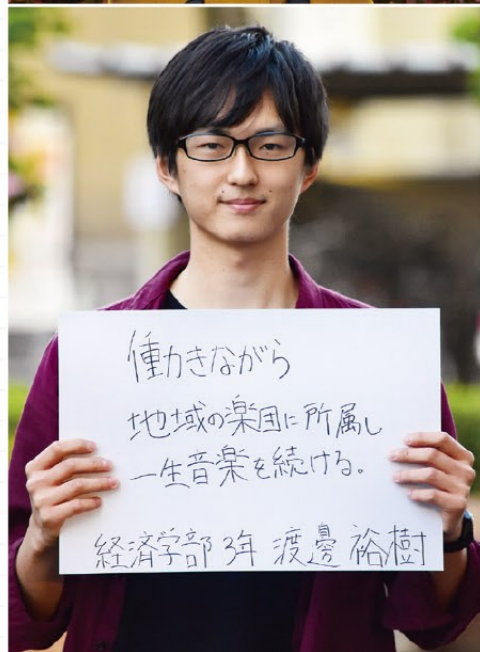
世界の企業を分析
できる
国際投資アナリスト
になる!

経済学部 4年 DAVID CHARLES MINGES



たくさん
旅に出る

地域政策学部 1年 本庄 真優



働きながら
地域の楽団に所属し
一生音楽を続ける。

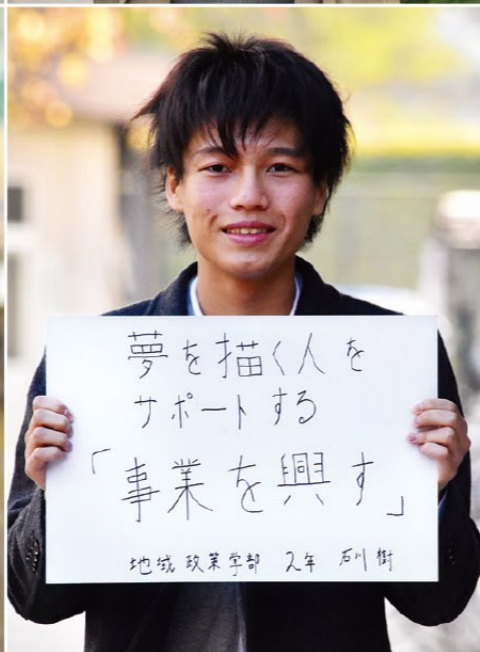
経済学部3年 渡邊 裕樹



将来、
『カフェを経営したい!』

地域住民の憩いの場を作り
地域活性化に貢献するのが目標☆

地域政策学部 3年 大森 麻由



夢を描く人を
サポートする
『事業を興す』

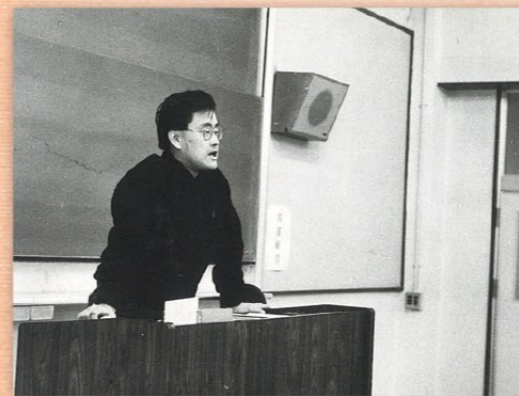
地域政策学部 2年 石川 樹

たかけい before after



歳月と共に変わるもの、時代は変われど変わらぬもの。
写真で見る高崎経済大学の今昔。

2016 矢野 修一 教授(56)
現在の夢「家庭内制覇!」



1994 矢野 修一 助教授(34)
当時の夢「世界制覇」?

1994年、赴任後間もない矢野先生。
今はなき「本館教室」での講義風景です。
ほぼ同時期に建てられ、今なお現役の「5号館」で当時から
再現してみました。黒いセーターは当時のもの(!!)です。



校舎



1967



1992



2016



1981
石川 弘道 講師(34)
当時の夢
「学内でまごまごしないこと」



2016
石川 弘道 学長(69)
現在の夢
「退職して孫・孫と遊ぶこと」

創立60周年を迎える2017年、高崎経済大学は、グローバル化の進展に対応するため、経済学部国際学科を開設します。国際学科は従来の学科と何が異なるのか、どんな人材を社会に輩出しようとしているのかを国際学科で教鞭をとる予定の教員に聞きました。



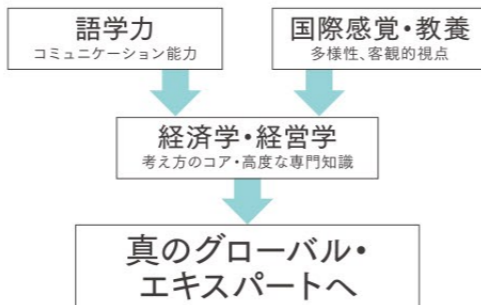
経済学部 教授
藤井 孝宗

グローバル化の進展にとまじり、日本が今後持続的に発展し国際社会で重きをなしていくためには、グローバルに活躍できる多様なスキルを持った人材の育成が急務となっています。これをうけて、次第にわが国においても「国際」と銘打つ大学学部・学科が増えてきているようにみえます。これらの学部・学科の教育方針は、大まかに分けると、以下の2種類に分けられるでしょう。ひとつは国際社会でのコミュニケーションに必要な語学力を集中して養うもの、もうひとつは国際社会で必要な幅広い教養を身につけるためのものです。

しかし、本学科はそれらとは少し異なる方針での人材育成を目指しています。それは、高度な専門知識をベースとして持ちつつ、幅広い教養や十分な語学力も備えたグローバル・エキスパートを育成することです。具体的には、まず、国際社会に必要な語学力や国際感覚・教養を身につけます。その上で、本学科が経済学部設置されることを活かして、経済学あるいは経営学の考え方をコアとしてしっかり学び、この分野の高度な専門知識を身につけます。これらの過程を経て、国際社会に貢献できる人材を育成することを目指します。

国際社会でコミュニケーションをとるためには、もちろん語学力は必須です。また、国際社会の一員として活動する際に、一般的な国際感覚や幅広い教養を身につけておくことも必要でしょう。しかし、これらの能力は、国際社会で活躍している人たちは誰でも程度の差はあるものの身につけているものであり、それだけで他人に対して優位性をもって活躍できる、というものではありません。真に国際社会で活躍するためには、何よりもまず自分は何が出来るのか、言い換えれば、自分がよりどころとする専門知識・能力は何なのか、が問われるのです。語学力があるだけ、あるいは幅広い教養を持っているだけでは、世界中の人材との競争に生き残ることはできず、協働することもできません。ジェネラリストではなくスペシャリストであることが重要なことです。本学科では、経済・経営の分野に関する豊富なカリキュラムと教員を有しています。この比較優位を生かし、経済学・経営学の専門知識を活用して国際社会で活躍するグローバル・エキスパートを育成することを目指しています。

国際社会においても、あるいは国内地域においても、確固たる専門知識を持ちつつ幅広い視野でバランス良く判断できる人材は非常に不足しています。逆に言えば、そのような能力を身につけることができれば、活躍できるチャンスは非常に大きいということです。本学科で学び、真のグローバル・エキスパートとして、国際経済・国際ビジネスの分野で活躍してください。



国際学科のカリキュラムについて

国際学科での学習は、学科に所属する前の1年次は学部共通科目や教養教育科目を中心に、2年次から国際学科に所属すると本格的に学科の専門教育科目の学習を進めます。国際学科の専門教育科目は、経済学科、経営学科同様、6群構成となっており、各群から卒業に必要な単位数を修得することとなります。

国際学科の第1群、第2群にはグローバル・エキスパートになるための基礎科目を配置しました。第1群は経済学・経営学の基礎的な科目を学習し、グローバルな舞台で「何を話すか」ということの基礎固めを行います。また、第2群は、「英語で話す」ことを重点的に学習しますが、授業の全てを英語で行う専門科目を複数開講するほか、海外における学習や体験を単位認定するための科目を開講し、実践的な英語スキルを習得することをねらいます。

海外での研修の機会を、国際学科所属直後の2年次夏季での参加を想定した語学研修プログラムをはじめ、演習などでの研究を推進するために、海外の現場に赴きそのビジネスの現場を探求する海外フィールドワーク、大学の提携校に半年間又は1年間留学する交換留学などがありますが、国際学科の全ての学生が可能な限り海外での研修に参加できるよう補助制度を充実する予定です。

第3群から第5群は、グローバル・エキスパートとして活躍するための専門分野の科目を配置しました。第3群では、経済学、経営学のいずれから専攻を決め、そのエキスパートとなるため、応用科目、発展科目を学習します。第4群は、国際社会や文化、エリア・スタディなどグローバル分野の幅広い専門知識を学び、第5群は経済学、経営学の国際分野に特化した科目を配置し、グローバルな視野を養います。

高崎経済大学の特長のひとつである「演習(ゼミナール)」は、経済学部の他の学科同様、2年次後期から4年次にかけて学習しますが、国際学科のゼミナールは、学科所属学生のみを対象とするため、国際分野での経験豊かな教員の下、グローバルな分野への学ぶ憧れを持った仲間と切磋琢磨して学習に取り組むことができます。

国際学科では、英語や国際系科目をはじめとしたグローバル教育と経済・経営のエキスパート教育が融合したカリキュラムにより、グローバル化する社会の課題に主体的に取り組むことができるグローバル・エキスパートの育成を目指します。

群	名前	概要
1群	経済・経営の基礎	経済・経営の基礎的理論・知識を学ぶ
2群	国際系基礎	英語科目・海外研修など国際社会に出るために必要な知識を学ぶ
3群	経済・経営系応用	経済または経営の専門知識をきちんと身につける
4群	国際系応用(社会政治)	国際社会に関する多様な知識を学ぶ(社会・政治関連)
5群	国際系応用(経済経営)	国際社会に関する多様な知識を学ぶ(経済・経営関連)
6群	学部必修科目	ゼミなど学部共通の必修科目

※国際学科を選択できるのは、2017年4月の入学生からです。既在学生は、国際学科の科目を履修することは可能です。

留学体験記

現地でしか感じられない新鮮な日々

地域政策学部 3年 南条 調



私は、中学生の頃から海外の文化などに興味を持ち、いつかは留学へ行き、海外の空気や文化を感じたり、実際に見たいと思っていました。そして、大学の留学制度を知り、短期の中でも一番長い6週間のホームステイで、英語漬けの生活を送ることができると思い、オーストラリアのラトロープ大学への留学を決めました。私は、海外に1か月以上滞在するのは初めてだったので、全てが新鮮で、毎日が発見と驚きの連続で楽しく過ごせました。

ラトロープ大学は、オーストラリアのビクトリア州メルボルンにある公立大学です。留学生も数多く通い、中国や韓国などのアジア圏から、コロンビアなどの南米圏まで様々な国から学びにきている学生がいます。そうした多国籍の留学生と同じ授業を受けるのは、とても刺激的でした。講義は主に英語で行われ、その中でオーストラリアの文化を知る授業や、グループディスカッションをすることもありました。今まで日本の価値観の中にいた私は、UAEやコロンビアからきていた留学生から、それぞれの国の文化について教えてもらい、刺激が多かったです。そんな様々な国籍の学生たちと関わることで、価値観や文化の違いを知り、受け入れることができ、改めて日本の良さや文化について考えるきっかけとなりました。

さらに、文化の違いを感じることは授業だけでなく、日常生活からも感じるがありました。ホームステイ先のホストファミリーをはじめ、中国人や韓国人のハウスメイトと話し、それぞれで流行っているものや日本をどう思っているか、各国の教育事情など、ニュースを見るだけでは知ることのできない情報も、多く知ることができました。英語を勉強できただけでなく、私が想像していたより

も多くの国の文化を知り、触れたことはとても大きな経験となりました。

留学中の多くの体験で、特に印象的だったことは、2月下旬に行われた「JAPANESE SUMMER FESTIVAL」です。オーストラリアでは、日本文化への関心が高く、毎年、街の中心にある広場で夏祭りが行われています。今回留学を共にしたメンバーと折り紙のワークショップで、ブースを出展しました。主に現地の小学生を対象に、日本文化の一つである折り紙を体験してもらおうということと、オーストラリアにある日本人会の方々と協力して作り上げました。現地の人たちと交流することで、日本の良さを知ってもらうことができ、私たち自身も現地の文化を直に触れる貴重な体験ができました。始まると同時にお客さんたくさんきてくれて、大変賑わいました。私はこの経験で、言葉が通じなくても、理解し合おうとお互いに歩み寄ることで、言葉だけではなく気持ちも伝わるものなんだと実感しました。これは、海外だからということに限らず、日本で過ごしていく中でも大切にしていきたいと思えました。

6週間という短い期間ではありましたが、今まで知らなかった世界を知ることと私の中の価値観が大きく変わってしまいました。得たものはとても多くありましたが、その中でも、「何事も自分の目で見て、実際に経験することでしかわからないことがたくさんある」ということを強く感じました。この経験を、これだけで終わりにするのではなく、残りの学生生活、そして就職してから思い出しながら、自ら動き、自分で様々なことを経験していきたいと思えます。

オーストラリアでの出会いや、留学という貴重な経験をさせていただいたことを大変嬉しく思います。ありがとうございました。



ホームステイの様子

▲大学内の様子

▲フェスティバルの様子

▲フリントストリートステーション

▲夏祭りの様子

▲夏祭りの様子

▶メルボルンの街中を満喫

▲ルームメイトとピリヤード



企業訪問@群馬(相模屋)



講演会



企業訪問@群馬(ペイン)



田舎館村での田植え体験



企業訪問@タイ



アジア研修旅行@タイ



アジア研修旅行@タイ



合同研究報告会



2016年度オープンキャンパスゼミ展示



弘前大学とのグループワーク



弘前おふた祭り参加



群馬県庁でのワークショップ

経済学部 准教授 **清水さゆり** | **地域政策学部** 准教授 **岩崎 忠**

教室「内外」で学ぶ、実感する

1. 研究分野
 国際ビジネスおよび国際経営、中堅・中小企業の研究を中心に行っています。
 このテーマを研究するようになったのは、高崎経済大学で貿易論のゼミを選択したことがきっかけです。ゼミの選択時に何を専門的に学びたいのかということ考えた結果、企業活動について、とりわけ国境を超えて活動を展開している企業について学んでみたいと思いゼミを選択し、その後の進路ともなりました。
 本学卒業後、早稲田大学大学院で国際ビジネスや国際経営論を学び、研究しました。企業がなぜ、どのように国際化するのか、そして、どのように海外拠点をマネジメントしているのかといった点に関心をもっています。私が所属したゼミは多くの先輩や同輩、後輩がいたため、研究面でも生活面でも多くの刺激を受けました。大学院をすでに修了し、研究者となっていた先輩方と頻繁にお会いする機会があったことも、私の研究に影響を与えていると思っています。学生の頃から、教室や研究室での研究だけでなく、直接企業の方にお話を伺う機会を得たり、国内外の拠点を訪問し、実際の現場を見て、現地の従業員の方の言動に触れることも数多くありました。時々都内および近郊の中小企業を訪問するなかで、中小企業経営者とお知り合いになる機会もあったため、大企業だけを研究対象とするのではなく、中堅・中小企業にも関心を持つようになりました。また、より現場の声や活動に目を向けていきたいと強く思うようになりました。今も現場に足を運び、話を聞き、観察することで、企業活動について考えることに取り組んでいます。

2. 担当科目
 担当しているのは、国際ビジネス概論、国際経営論、多国籍企業論です。企業の国際化の実態やどのように国際経営が進展してきたのか、国際化の論理、国際化した企業が保有する数多くの海外拠点をどのようにマネジメントしているのかなどについての講義です。国際経営と聞くと、少し遠い存在とを感じる向きもあるかもしれませんが、実際には私たちの身の回りには多国籍企業による製品やサービスがたくさんありますし、海外と関係のある企業でアルバイトをしている学生もたくさんいるのではないのでしょうか。小さな会社の中にも海外から原料を輸入したり、自社製品や部品を輸出している企業もあることから、実は身近な問題だと感じながら学んでもらいたいと思っています。

3. ゼミ活動内容
 国際経営論/国際ビジネスをテーマにしたゼミです。専門書などを、担当者を決めて報告してもらい、その内容について話し合うというのが基本的なゼミのスタイルです。ただ、私が経験したように、実態を知る機会がある方が理解しやすかったり、ものごとを実感できるのではないかと考えています。そのため、実務家の方の講演を行ったり、企業や工場を訪問したりしています。また、夏休みには、海外に展開している日系企業や現地企業を訪問するために、タイなどのアジア諸国での企業訪問研修を行っています。日常とは異なる場所や人々に触れることで、異文化を感じる機会にもなっているようですし、その後の学習意欲を高める機会になっているのではないかと期待して実施しています。また、4年次での卒業論文の作成と2、3年次での他大学ゼミとの合同研究報告会などで、ゼミ活動の成果を発表しています。多様なアプローチでの学びを心がけていきたいと思っています。

真剣に議論するからこそ、ゼミは面白い!!

1. 教員のプロフィールと担当講義
 私は、神奈川県庁の行政職として19年間(1991年4月~2010年3月まで)勤務し、地域計画の立案、予算査定、議会の質問・答弁調整、指定管理者業務、道路用地買収等、政策立案から執行・評価までの一連の自治体の政策過程を経験してきました。その後、4年6か月(2010年4月~2014年9月まで)は、公益財団法人地方自治総合研究所常任研究員として地方自治制度改革を中心に研究してきました。
 2014年10月から本学に赴任し、地方自治論、地域行政論、地方自治法、地方分権論の講義を担当しています。私の研究分野は、地方自治論、公共政策、行政学です。

2. 分析する視点をもって、しっかりと議論するゼミ!!
 私たちのゼミは今年で2年目を迎えた新しい研究室です。2年生11名、3年生12名の総勢23名のゼミ生とともに、現場を重視したさまざまな地方自治研究をしています。
 ゼミが発足した2015年は「地方創生」の流れの中で、ほとんどの自治体が地方版「まち・ひと・しごと創生総合戦略(=総合戦略)」に取り組んでいたこともあり、私たちのゼミも「地方創生」をテーマに活動してきました。ちょうど、田んぼアートで有名な青森県南津軽郡田舎館村から私たちのゼミあてに総合戦略の策定に向けた提案をするように依頼があり、4回の訪問を行い、提案をする機会に恵まれました。その成果の一部を2015年12月に本学で開催された自治体学会関東フォーラムでゼミ生が報告し、SNSを使った情報発信の必要性、キャッチコピーなど用いたプロモーション活動の重要性を強調したところです。その後、2016年4月から9月までは各地の総合戦略を分析することとし、ゼミ生が出身地の総合戦略を調べてその特徴を議論しました。

その結果、基礎自治体である市町村の総合戦略は、出産・子育て支援、移住施策といった「ひとの戦略」が中心となり、産業・雇用などの「しごとの戦略」が補完している一方で、広域自治体としての都道府県の総合戦略は、MICEなど国内外の交流を取り入れた「まちの戦略」まで盛り込んだ広範囲な戦略になっていると分析しました。そして、2016年10月からは、いつでもどこで災害が起きるかわからない「震災ガバナンス時代」になった現状を踏まえ、「災害対策と自治体」をテーマに、現在、比較的読みやすい専門書を輪読しています。来年の春には、東日本大震災被災地の復興状況を調査する予定です。今後も、自治体の政策課題の中からテーマを特定して、理論と実務の融合を目指し、現場を重視した実践的なゼミ活動を行っていききたいと思います。

3. メリハリのあるゼミ活動!!
 私たちのゼミは、ゼミ生のほとんどが公務員志望なので、公務員試験合格者による体験談、現役公務員による職場紹介などの座談会を開催しています。また、群馬県庁、神奈川県庁を訪問し、ヒアリング調査をするのと同時に、ワークショップなども経験させていただいております。さらに、高崎市政政策立案研修をサポートすることで、研修担当職員の業務の一部を経験させていただいています。夏・春の長期休暇では、公務員試験合格を目指し、過去問試験を使った実践的な勉強会を行い、知識の習得に努めています。こういった課外活動の後は、懇親会、街並み散歩などを行い、ゼミ生と教員が楽しいひと時を一緒に過ごしています。
 これからも、ゼミ活動では十分な調査と徹底的な議論を行い、課外活動ではしっかりと楽しむといったメリハリのあるゼミにしていきたいと思っています。

学生クローズアップ



ラクロス部

経済学部3年 副部長 本田真穂

1 ラクロスってどんなスポーツ?

ラクロスがどんなスポーツなのか、ルールや試合について知っている人は少ないと思います。ラクロスが初めて日本に伝えられたのは1986年で、競技人口も少なく日本ではまだまだ歴史の浅いスポーツです。

ラクロスはクロスと呼ばれるスティックの先に網のついた道具を使い、12人で1つのボールを繋ぎゴールを目指します。コートはサッカーコートと同じくらいで、ゴールにはゴールキーパーが1人つきまします。試合時間は25分ハーフで、ハーフ間は10分、試合展開が早く、スピード感のあるスポーツです。

2 ラクロス部の歴史

ラクロス部は創部7年、公式戦に参加して4年目と、来年創立60周年を迎える本学でも比較的新しい体育会系の部活です。創部者は、アメリカンフットボール部のマネージャーをしていた藤原絵梨さんという方です。群馬ラクロスクラブの練習に参加し、ラクロスを知り、ラクロス部を創設。現在のラクロス部の基礎を作ってくださいました。

創部3年目にして高崎経済大学体育会準加盟、日本ラクロス協会に加盟。関東学生ラクロス準リーグ加盟。本格的に部活として始動しました。4年目、高崎経済大学体育会に正式加盟。関東学生リーグ戦に正式加盟。4部リーグに所属する。三部昇格を目標にするも、リーグ戦全敗。幹部交代後、チームに初めてコーチをつける。春休みは他大学に各々が連絡をとり、練習に参加する武者修行を行いました。

その後5.6年目も三部昇格を目標にするも、リーグ戦全敗という結果に終わりました。そして7年目、新しくコーチをつけリーグ戦で初勝利、二勝し今期は4部リーグCブロック3位という結果で幕を閉じました。

創部当初は、部費や練習メニューなど全てが手探りだったためとても苦労したそうです。部を創部してくださった方、創部に協力してくださった方、部を支えてくださったOGさん、コーチがいたからこそ現在のラクロス部があるということをお忘れず、来期のリーグ戦に向けて日々の練習を行ってまいります。

3 チーム名について

高崎経済大学ラクロス部はチーム名があり、クライマーズ(climbers)といいますが、「山を登るように一歩一歩みんなで1つの頂上を目指していこう。どんなに高い山でも着実に歩んで行けば必ず頂上にとどり着ける。みんなで目標に向かって戦って行こう。」という意味が込められています。

4 他大学との交流

ラクロス協会には「lacross makes friends」というスローガンがあります。ラクロス部はどの部活よりも他大学との交流が多い部活です。群馬でラクロスをしている大学は高崎経済大学しかありません。そのため、練習試合や合同練習は県外の学校と行っています。今期は埼玉大学、茨城大学、西武文理大学、信州大学、筑波大学、熊谷女子高校、新潟大学、駒沢女子大学、東京外国語大学、岩手大学との交流がありました。そうした経験を積むことで、他大学がどんな練習をしているのか、どのように部活を運営しているのかを学ぶことができ、他大学との交流も深まりました。練習試合や合同試合、合同練習を組むためにはこれまで培って来た人脈が非常に重要です。これからも他大学と交流を深め、より良いチームにしていきたいと思っています。

5 今期をふりかえって

この1年間最も苦労し、そして最も充実した1年だったと思います。去年のリーグ最終戦では、同じ4部相手に20点近い差を付けられ敗戦し、とても悔しい思いをしました。そこから、今期のリーグ戦で必ず勝ちたい、三部昇格をしたい、その一心で幹部として部活を運営してきました。部活の運営で最も苦労したことは、下級生のモチベーションを維持することでした。幹部と下級生との間の目標への意識の差を埋めることができず、悩んだ時期もありました。しかし、諦めず話し合いを重ねることによって、部を運営することができました。

技術面では新しいコーチの影響が大きかったです。世代別日本代表経験のある方で、個人技術の上達やチーム力向上の手助けをしていただきました。

4部で戦うことができ、3部に手の届くところまで勝ちあがれたのは、これまでのプレーヤー達の努力と練習をサポートしてくれたマネージャー、コーチ、OGがいてくれたからです。OGたちの意志を引き継ぎ、来年こそは必ず三部昇格を果たしますので、これからも応援よろしくお願いします。

6 戦績

- 関東学生リーグ戦
- 2013年 4部リーグ全敗
- 2014年 4部リーグ全敗
- 2015年 4部リーグ全敗
- 2016年 4部リーグ二勝二敗ブロック3位



ふるさとを語る

日本編その33 鳥取県

『日本で一番人口の少ない県』

空港が二つある

鳥取県は、中国地方の日本海側に位置し、兵庫県と鳥根県の間にあります。日本で最も人口が少なく、また県内の市が四つと日本で最も市が少ない県です。冬には、日本海側とあってたくさんの雪が降り積もり、西日本有数の豪雪地帯でもあります。

県内には空港が二つもあるため、群馬県に空港がないことを知ったときは驚きました。

特産物では、豊かな自然が育んだ二十世紀梨や松葉ガニが有名です。ほかに、「ゲゲゲの鬼太郎」の作者水木しげる氏や、「名探偵コナン」の作者青山剛昌氏といった漫画家を輩出していることでも知られています。

鳥取砂丘の驚くべき認知度

県を代表する観光地の鳥取市にある鳥取砂丘は、高崎で暮らすようになってから、「鳥取といえば砂丘でしょ」と頻りに尋ねられ、その知名度の高さに驚きました。鳥取に住んでいるときには、鳥取砂丘が県外の人にこれほど認知されているとは知りませんでした。

鳥取砂丘では、広大な砂丘の土地をラクダに乗って遊覧することができます。また、隣接する「砂の美術館」では、砂で作られた像やモチーフの世界観を見ることができます。

とても壮大な砂丘が広がっているので、人生で一度は訪れてほしい場所です。

砂丘だけではない!

鳥取県は、スターバックスが出店していない最後の県としても有名でした。そのため、平井県知事は「スタバはないけれど、世界一のスナバはある」という言葉を残しています。この言葉が反響を呼び、そして今では「すなば珈琲」が登場。新たな観光地としてスポットライトを浴びています。



広すぎる「鳥取砂丘」



知事の発言から生まれた「すなば珈琲」



綺麗すぎると話題の「浦富海岸」



倉吉市を代表する観光地「白壁土蔵」の街並み



海外編その32 アイルランド ダブリン市

『My hometown is Dublin that is the capital of Ireland.』

『My life in Japan』

My name is Jeanne Cortez and I am an exchange student from Dublin City University in Ireland. I chose to exchange in Japan to learn more about Japanese culture while continuing with my Japanese language studies. So far I have experienced many great things in Japan like visiting Tomioka Silk Mill and Tsurugaoka Hachimangū Shrine as well as eating traditional Japanese food such as Sashimi and Sukiyaki. I have also made some friends which makes living in Japan much more enjoyable. I hope to explore more about Japan as the months go by. I have also included two popular places in Dublin to visit. I hope that when you visit Ireland you can also experience the difference in culture.

『General Post Office』(G.P.O)

Almost 200 years ago in Dublin's O'Connell Street, the G.P.O was built. This is one of Dublin's most important buildings. During the Easter Rising in 1916, the G.P.O had an important role and became the headquarters. On Easter Monday 1916, Patrick Pearse, one of the leaders during the Easter Rising, read the Proclamation of Independence to the public, declaring Ireland a Republic. The G.P.O has a visitors centre inside where you can learn more about its history.



General Post Office

『Temple Bar』

Temple Bar is promoted as Dublin's cultural area. It is located on the south bank of the River Liffey in Dublin and has a population of around 3000. Temple Bar includes various restaurants from different countries, local Irish goods stores, museums, hotels and of course pubs. Temple Bar has a lively daytime atmosphere but especially at night. Every Saturday Cow's Lane Market takes place. This is a fashion and design market located in Cow's Lane which is in the Temple Bar area.



Temple Bar

鶴鷹祭 かくようさい

第50期体育会本部 代表幹事
経済学部 4年 野木康士郎

4連敗の中迎えた第43回鶴鷹祭、高崎経済大学には私を含め鶴鷹祭の勝利を知るものは誰一人としておらず、絶対に負けない、今回こそ絶対勝つという強い気持ちで都留文科大学に立ち向かった。

高崎経済大学の勝利をひたすら願い、声を枯らして声援を送った。また、両大学の選手も一緒になって声援を送っていた。各大学が一つになることはもちろん、私は大学の垣根を超えて一つになっていると実感することが出来た。結果は14-8で、見事に高崎経済大学が総合優勝を勝ち取った。私自身、初の鶴鷹祭総合優勝を味わうことができたのはとても良い経験になり、これからの高崎経済大学にとっても弾みをつける勝利であった。来年、再来年、そして何十年先も高崎経済大学には連勝街道を突っ走って欲しいと思う。

最後に、鶴鷹祭の運営にあたり、学長をはじめとする諸先生方、学生支援チームの皆様、地域住民の皆様、そして体育会員の皆様、至らぬ点多くありましたが皆様のご協力のお陰で無事、鶴鷹祭を大きな事故なく開催することが出来ました。この場をお借りして御礼申し上げます、本当にありがとうございます。来年度は高崎経済大学創立60周年を迎えます。高崎経済大学の更なるご繁栄をお祈り申し上げまして結びとさせていただきます。

※来年度の鶴鷹祭は、創立60周年を記念して本学で開催されます

第43回鶴鷹祭 試合結果表
平成28年6月25・26日 於：高崎経済大学

種目	高経大 - 都留大	MVPor敢闘賞
空手道	○ 2 - 0 ●	宮岡 司
弓道	○ 105 - 79 ●	篠崎 慧太
男子剣道	● 1 - 3 ○	上山 剛史
女子剣道	○ 3 - 1 ●	田中 楓
男子硬式テニス	○ 6 - 3 ●	市川 雅人
女子硬式テニス	● 3 - 4 ○	武井 萌子
サッカー	○ 2 - 1 ●	亀田 竣介
準硬式野球	○ 8 - 3 ●	松永 颯人
男子ソフトテニス	● 2 - 3 ○	清水 大輝
女子ソフトテニス	● 0 - 3 ○	大澤 瑞紀
ソフトボール	○ 5 - 1 ●	多胡 和輝
男子卓球	○ 5 - 2 ●	鈴木 拓朗
女子卓球	● 2 - 3 ○	竹内 果緒
男子バスケットボール	● 82 - 98 ○	井上 魁徒
女子バスケットボール	● 51 - 111 ○	村岸 瑞季
男子バドミントン	○ 4 - 1 ●	植木 優介
女子バドミントン	○ 3 - 2 ●	樋口 香澄
男子バレーボール	○ 2 - 0 ●	横山 諒
女子バレーボール	● 0 - 2 ○	松田 樹奈
ハンドボール	○ 28 - 22 ●	吉田 拳士
ラグビー	○ 31 - 17 ●	竹之内 惟吹
陸上競技	○ 33 - 31 ●	岩波 征也
総合成績	● 14 - 8 ○	

※表中○が勝ち、●が負け、数値が得点



三扇祭 みつおうぎさい

第59回三扇祭実行委員会 委員長
地域政策学部 3年 太田 誠也

11月3日から6日の4日間に渡り、第59回三扇祭が開催されました。今年は「Link ~次の時代へ~」をテーマに掲げ、来年60回という節目の年に向けた「つながり」を意識し、新たなステージの序章となる三扇祭を築きたいという想いを込めました。また、学生・来場者の双方が主役となって光り輝けるような三扇祭を目指し、日々努めて参りました。

今年の三扇祭は天候にも恵まれ、大きな事故なく4日間を終えることができました。皆様楽しんでいただけたでしょうか？少しでも楽しんでいただけたら、私たち実行委員会としてはこの上ない喜びです。

最後に、三扇祭を無事に終えることができたのは参加者の皆様をはじめ、協賛企業、大学関係者の皆様など多方面からのご支援、ご協力があったからこそです。この場をお借りしまして、委員を代表し御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



たがけい INFORMATION



就職支援

OB・OGによる就職相談会が開催されました

毎年恒例となっている「OB・OGによる就職相談会」が、今年も開催されました。同窓生である社会人との交流は現役生にとって就職活動を行ううえでの心構えや、業界・企業研究のヒント、学生時代の過ごし方など、多くの有益なことが学べる貴重な機会となっています。

東京会場

10月8日(土)にフクラシア品川クリスタルスクエアにて「OB・OGによる就職相談会in東京」を開催し、東京在住の本学卒業生が組織する「東京三扇会」より(株)東芝、清水建設(株)、(株)きんでん、(株)リクルートスタッフィング、(株)りそな銀行、SMBC日興証券(株)、預金保険機構、いであ(株)、キッコーマン(株)といった企業に勤務される同窓生に出席していただきました。参加した学生は同窓生に「OB・OGだからこそ聞ける企業や業界の深い話」、「就職活動の心構え」等の質問・相談に応じてもらうことができ、就職活動への意識を高めることができました。また、多くの同窓生との交流を通して、同窓生とのつながりを強固なものとし、有意義な時間を過ごしました。



就職相談会in東京

高崎会場

11月26日(土)に本学7号館において「OB・OGによる就職相談会in高崎」を開催し、全国から多くの同窓生にお集まりいただきました。最初に同窓生であるヤマト運輸(株)代表取締役社長の長尾裕氏よりご講演いただきました。日本を代表する企業のトップの方からのお話を伺い、学生たちは就職活動への意気込みを新たにするとともに、大きな勇気をいただきました。その後行われた地域別・業種別の相談会では地元の情報のほか、先輩方の仕事に取り組み姿勢や就職活動の経験談などを伝えていただいたほか、一人ひとりの学生からの質問に対しても丁寧に答えられました。最後に行われた交流会の頃には学生たちも緊張がほぐれた様子で、時間を惜しんで積極的に先輩方に話しかける姿も見られ、有意義な1日となりました。



就職相談会in高崎

キャリア支援センターからのお知らせ

キャリア支援センターでは、各種ガイダンスやセミナーといった就職支援事業を行っています。今後、実施予定のイベントについてお知らせいたします。積極的に参加してください。各イベントの詳細はメールやホームページ、または学内掲示板等でご確認ください。

●お問い合わせ=キャリア支援センター：電話027-344-6263

開催日時	事業名	
12月16日(金)	16:00~17:30	自己分析セミナー【学部3年生・院1年生対象】 要申込
12月21日(水)	16:00~17:30	高崎市役所採用試験制度説明会【学部3年生・院1年生対象】 要申込
1月11日(水)	17:45~19:30	エントリーシート対策講座【学部3年生・院1年生対象】 要申込
1月16日(月)~19日(木)	12:30~16:30	業界セミナー【学部1~3年生・院1年生対象】 要申込
1月20日(金)	17:45~19:15	グループディスカッション実践練習会(3回開催予定)【学部3年生・院1年生対象】 要申込
1月23日(月)・27日(金)	16:00~17:30	SPI試験(言語・非言語)WEB体験受験会【学部3年生・院1年生対象】 要申込
2月7日(火)	14:00~15:30	国家公務員採用制度説明会【学部1~3年生・院1年生対象】 要申込
2月11日(土)	終日	OB・OGによる模擬面接会【学部3年生・院1年生対象】 要申込
2月17日(金)	13:30~15:00 15:30~17:00	グループディスカッションセミナー【学部3年生・院1年生対象】 要申込 模擬面接セミナー【学部3年生・院1年生対象】 要申込
3月1日(水)~3日(金) 13日(月)~16日(木)	12:30~16:30	合同企業説明会【学部3年生・院1年生対象】 要申込
随時	10:00~17:00	就職相談会【全学年対象】 要申込

後援会

高経大後援会学生奨学金について

学生の学業と生活支援を目的とした給付型の奨学金制度です。授業料減免対象者の中から成績優秀な学生を支給対象者として事務局から推薦します。

高経TOEIC成績優秀者表彰について

TOEIC公開テストで700点以上を獲得した学生に賞状及び記念品の授与を行います。現在、今年度分の申請を受け付けています。該当する学生は、平成29年2月28日(火)までに申請書を提出してください。

白馬セミナーハウス閉鎖について

諸般の事情により、平成29年3月31日(金)をもって閉鎖する運びとなりました。なお、閉鎖日までは通常通り営業を行う予定です。これから白馬村はベストシーズンを迎えますので、引き続きご活用ください。

支部総会を開催しました

9月から12月にかけて全国8支部で開催し、今年も多くの保護者の皆さまにご参加いただきました。今年度は同窓生に出席していただいた支部もあり、Uターン就職の状況や学生に対する同窓会の就職支援体制等の報告を行っていただきました。

(来年度の予定は平成29年7月頃にホームページにてお知らせいたします。)

●お問い合わせ＝後援会事務局：電話027-344-7902

箱根駅伝予選会6年連続出場

陸上競技部が10月15日(土)に東京都立川市で開催された第93回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の予選会に出場しました。本学の出場は6年連続となり、応援バスツアーも企画され、応援団や多くの学生がのぼり旗を手に声援を送りました。



駐輪場を整備しました

本学は多くの学生が自転車で通学していますが、学内南西の6号館・7号館・三扇会館の周辺は通路への駐輪が多く、溢れた自転車が通行の妨げになるほか景観面でも問題となっていました。

そこで、夏季休業中に2号館と3号館の間のスペースを舗装し、新たに自転車350台を収容可能な駐輪場を整備いたしました。

新しい駐輪場を積極的に利用し、学内環境の向上にご協力ください。



同窓会支部総会のお知らせ

今年度は、下記の支部にて総会が行われました。多くの同窓生にご参加いただき、大変ありがとうございました。

平成29年度の開催予定につきましても、詳細が決まり次第、同窓会のホームページにてお知らせいたします。

●お問い合わせ＝同窓会事務局：電話027-344-6262

支部	開催日	支部	開催日
桐生支部	4月23日(土)	四国合同支部	10月1日(土)
栃木支部	5月21日(土)	東京支部	10月8日(土)
京滋支部	6月11日(土)	札幌支部	10月14日(金)
本部支部	6月18日(土)	三重支部	10月15日(土)
群馬支部	6月18日(土)	静岡支部	10月22日(土)
福井支部	8月20日(土)	青森支部	10月22日(土)
石川支部	8月27日(土)	長野支部	10月29日(土)
富山支部	8月27日(土)	岩手支部	11月10日(木)
新潟支部	9月11日(日)	関西支部	11月12日(土)
東海支部	9月17日(土)	鹿児島支部(設立)	11月12日(土)
宮城支部	9月24日(土)	飯田支部	12月3日(土)
オホーツク支部	9月24日(土)	大分支部	12月3日(土)

今年度、新たに鹿児島支部が設立されました。鹿児島支部が加わり、本学の同窓会支部は30支部となりました。



今回の表紙

～第59回三扇祭実行委員会のみなさん～
今年も4日間の三扇祭を盛り上げてくれました。
次回は三扇祭も60回目を迎えます。